沼津市明治史料館通信
二〇二五年一月
通巻160号

■江原素六とその周辺　73
平井参と江原素六
■シリーズ　沼津兵学校とその人材　113
沼津兵学校の人材供給源となった幕府外国方

平井参撰文「江原先生七十寿序」
当館蔵

大正９年（1920）の麻布中学校の教師たち
当館蔵『第二十五回卒業記念写真帖』所載
前列左から　高木環　小林光　森六蔵　清水由松　江原素六　平井参　田畑梅次郎　多田綱輔
中列左から　瀧異　熊崎武良温　橋口毅　稲葉虓一　岩本堅一（素白）　相曽博　信山弥太郎
後列左から　小笠又蔵　竹田虎作　鈴木剛蔵　森八郎　山根藤七　法邑清蔵

江原素六とその周辺 73

平井参と江原素六

江原素六が校長だった東洋英和学校・麻布中学校で、長く漢文の教師をつとめた平井参（旧名は三郎、号は魯堂、一八五八～一九四五）という人物がいる。その略歴は、大野虎雄『沼津兵学校附属小学校』（一九四三年、私家版）に掲載されている。維新後、旧幕臣青柳孝徳の次男として三河国横須賀（現西尾市）に移住したが、後に沼津に転住して、沼津小学校や集成舎変則科に学んだ。

平井と江原は姻戚関係にもあった。平井の実父青柳孝徳の姉妹である鏡子は、江原夫人縫子の叔父和多田一夢に嫁いでいた。すなわち平井と江原は義理の従兄弟ともいうべき間柄だった（「姻戚関係にみる沼津兵学校の人物」『通信』第二三号、「叔父和多田一夢」『通信』第五五号）。沼津で学ぶように平井を誘ったのは、和多田だった。幼くして父を亡くした平井は、薫陶を受けた江原を父のように慕ったという（「江原先生七十寿序」）。

また、遠州横須賀（現掛川市）に移住し静岡藩横須賀修業所筆学二等教授をつとめた旧禄三〇〇俵の元旗本能勢頼雍（又十郎）と、一夢の娘せいの間に生まれた三枝基は、東京の江原宅に住み込み、麻布中学校の書記をして働きながら勉学し、後に三井物産に勤めることとなったが、上京の際には母の「従兄に当る平井参氏」に厄介になったと述べている（『聖女羽山荊子』）。

天保期に畳方手代世話役をつとめた「青柳大次郎」が平井の祖父ではないかと考えられ、実家青柳家は、書院番をつとめた三〇〇俵の旗本青柳家から分家した人だったらしい（『新訂寛政重修諸家譜』一八）。

平井は明治三九年（一九〇六）に明治大学予科教授となり、麻布中学校を転出したはずであるが、大正九年（一九二〇）の教員集合写真に写っていることからすると、その後も講師をつとめたのであろう。『春風一夢』、『立憲改進党列伝』、『小学修身鑑』、『スヰントン氏第四リーダー直訳講義』、『支那文学全書第拾八編　戦国策』、『正則スヰントン氏第三リードル独案内』、『新撰中学漢文』、『新式初学作詩法』、『漢文講読』、『逐鹿詩鈔』、『廻瀾集』、『鶴寿集』、『韓非子鈔』、『論孟鈔』等々、明治期から昭和十年代に至るまで、漢学・漢文関係を中心とした著作も多い。

江原が亡くなった際には、漢文による墓誌の撰者となっており、それは銅板に彫られ遺骸の上に置かれた。また、追悼のための漢詩には、「親炙先生五十年」と記しており、まさに沼津小学校時代からの長い親交があったことが記されている。

（樋口雄彦）

シリーズ　沼津兵学校とその人材 113

沼津兵学校の人材供給源となった幕府外国方

沼津兵学校の教授陣に、幕府の洋学研究機関であった開成所、フランス語教育のための横浜語学所、陸軍・海軍の教育機関（講武所・陸軍所・長崎海軍伝習所・海軍所など）の出身者が多く集められたことは、これまでもよく語られてきた。付け加えるならば、もう一つの人材供給源として、幕府の外国方があったことも強調しておく必要があるだろう。ここに掲げた表は、そのことを示すものである。また、開港地となった長崎・下田・神奈川・箱館といった遠国奉行とその配下たちも、外交事務の一端を担ったという意味では、外国方と同様の意味を有したので、表に含めた。

そのような組織に属した者たちの中には、外国語を習得し通訳・翻訳を専門とした人材がいたほか、単なる事務官であっても外国相手の仕事をすることで視野を広げ、開明的な考えを身に付けた者も少なくなかったはずである。

一方、沼津兵学校の姉妹校たる静岡学問所の教授陣にも、向山黄村・江連尭則といった外国奉行経験者、河田熙・三田葆光・杉浦譲・河田羆・小田切綱一郎・名村元度といった外国方の属僚出身

者がいた。さらに教育機関以外の部門でも、静岡藩には、浅野氏祐・平岡準・酒井忠進といった外国奉行（並）の経験者、織田信重・杉浦梅潭・依田盛克といった箱館・神奈川奉行の経験者、西成度・淵辺徳蔵・前島密・宮田正之・福田重固ら外国方・遠国奉行の属僚経験者が少なくなかった。中泉奉行としての前島の施策にみるごとく、外国事情に通じた彼らの存在が、文教面のみならず行政面にも清新さをもたらしたという一面があった。外国方の通弁出身の西成度が権少参事・刑法掛といった行政職に就いた点も同様である。もちろん、沼津兵学校においては、西周以下の洋学者たちの理解者として、その主導性をバックアップする役割をはたしたであろう。

さらに、文官や研究職とは違うが、外国御用出役・神奈川奉行支配定番役・別手組など外国人警護を担当した一群は、剣術や砲術を得意とした武官であり、軍学校としての沼津兵学校には採用されてしかるべき者たちだったといえる。

（樋口雄彦）

幕府外国方に所属した前歴を持つ沼津兵学校関係人物

氏　　名	外国方時代	沼津兵学校時代
江原素六	外国奉行支配手附？　外国御用出役？	少参事・軍事掛
桑原文三	外国奉行支配定役元〆	軍事俗務方頭取
須藤時一郎	外国奉行支配調役並	軍事掛附属
田辺太一	外国奉行支配組頭	一等教授方
乙骨太郎乙	外国奉行支配調役	二等教授方
横山半造（半左衛門）	外国御用出役、同頭取、別手組頭取取締	二等教授方
高島茂徳（四郎兵衛）	外国奉行支配通弁出役	三等教授方
薗鑑（鑑三郎）	外国奉行支配同心格翻訳御用	三等教授方
杉浦赤城（清介）	外国奉行支配定役元〆	三等教授並
柏原淳平	外国奉行手附横文字認方出役	火工方
本多忠直（幸七郎）	外国御用出役、別手組頭取	体操教授
杉田玄端	外国奉行支配翻訳御用頭取	沼津病院頭取

外交業務を担った遠国奉行に属した前歴を持つ沼津兵学校関係人物

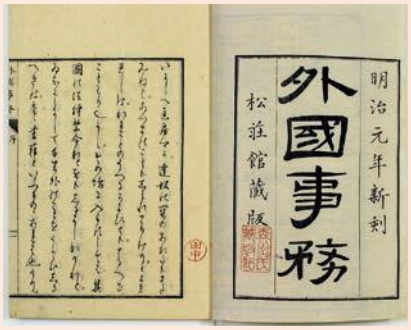
氏　　名	旧幕時代	沼津兵学校時代
服部常純（綾雄）	長崎奉行	権大参事・軍事掛
井上清相（周二）	長崎奉行手附書方出役、同支配定役、同支配定役元〆、同支配調役並出役、同支配調役並	書記方
中村六三郎	長崎奉行支配同心・大砲方	測量方
渡部温（一郎）	下田奉行支配書物助	一等教授方
北脇豊寛（弥七郎）	下田奉行支配調役下役、神奈川奉行支配定役	軍事俗務方頭取
金子宗敬（龍太夫・龍太郎）	神奈川奉行支配同心仮御抱、同支配定番役、同支配定番取締役、同支配定役	軍事俗務方頭取介
高藤三郎（藤之進）	神奈川奉行支配調役	軍事俗務方頭取
並木元節（桃之丞）	神奈川奉行支配同心御雇	調馬方
小野田東市	神奈川奉行支配定役並、同支配定役・武術教授方、同支配定番取締役、同支配定番役頭取	附属小学校剣術教授方手伝
吹田鯛六	神奈川奉行支配手附銃隊教師	第４期資業生
伊庭真（惣輔）	神奈川奉行支配定番役出役、別手組出役	第４期資業生
川口嘉（覚蔵）	箱館奉行手附出役	軍事俗務方頭取
増井以孝（市蔵）	箱館奉行支配定役出役	軍事俗務方頭取介
外川一貫（作蔵）	箱館奉行支配同心	軍事俗務方
前田文太郎	箱館奉行支配定役	軍事俗務方
伴鉄太郎	箱館奉行手附出役、同支配調役並	一等教授方
陶山儀三郎	箱館奉行手附出役	附属小学校剣術教授方手伝
永井玄栄	箱館奉行所御雇医師	沼津病院三等医師並

各種文献より作成

乙骨絅二の神奈川奉行支配定番役並出役辞令

当館蔵

絅二（後の上田亘）は、沼津兵学校二等教授になった乙骨太郎乙の弟で、後に外国奉行支配定役元〆などをつとめた上田畯の養子になった。神奈川奉行支配定番役は、外国人の警護隊。



外国事務

当館蔵

明治元年（1868）11月刊。

福地源一郎（桜痴）訳・辻新次（理之介）校・柳河春三（春蔭）序により、ロシア外務省の組織・制度を解説したもの。松荘館蔵版・「駿藩森川氏蔵梓印辞」とあり、外国奉行並や開成所奉行並をつとめた森川義利（荘次郎、明治16年12月９日没）が板元となった。福地は外国方、辻・柳河は開成所で仕事をした洋学者たちであり、旧幕府の外交分野での知見を書籍の形にして、次代へ引き継ごうとしたことがわかる。

今年度も多くの小・中学生が当館を利用してくれました！

博物館の仕事の一つに、教育普及活動があります。その内容は、講座やイベントの開催など様々です。その中で、当館では近隣の小・中学校と連携しての郷土学習や、博物館の仕事に関する学習を支援しています。今年度（12月まで）に当館を利用した小・中学校を紹介します。

江原素六学習	６月６日（木）	沢田小学校４年生
	９月26日（木）	金岡小学校４年生
	10月９日（水）	門池小学校４年生
	10月23日（水）	開北小学校４年生
中学生の職業体験	11月１日（金）	第五中学校２年生

▼開北小学校４年生からお礼のお手紙

ぼくは、見学で江原素六さんのお仕事がよく分かりました。一番勉強になったのは政治です。今回の見学でいっぱい学びました。

江原素六先生へのきょうみが深まりました。素六先生は、地域の人からそんけいされていて、すごいとおもいました。

見学のときは、分かりやすくせつ明してくださり、ありがとうございました！江原素六さんのことを家族に教えたくなりました。

明治しりょうかんを見学させていただき、ありがとうございました。江原素六さんのことを、じゅぎょうよりも、もっと知ることができました。また来たいです！

▼門池小学校４年生からお礼のお手紙▼

沼津市明治史料館通信

第160号

令和７年１月31日

編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL 055－923－3335
FAX 055－925－3018
印刷　みどり美術印刷株式会社

お詫びと訂正

通巻159号に誤りがございました。
お詫びして、下記のとおり訂正させていただきます。

該当箇所：表紙　「上野黒門除幕式の写真」　解説２行目

【誤】　遊撃隊・元岡崎藩主藩士の小柳津要人か。
↓
【正】　遊撃隊・元岡崎藩士の小柳津要人か。